

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0272100983		
法人名	有限会社サークル介護		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地 (電話番号)	〒038-2811 青森県つがる市森田町上相野柁木19-4 (電話) 0173-49-1577		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月9日	評価確定日	平成21年11月9日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 2月 11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 6人, 非常勤 11人, 常勤換算	10.71人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 840 円			

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83.7 歳	最低 75 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みやしげ内科
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅街に位置し、民家と隣接しているため、地域との関係も密接であり、日常的に外出の機会も多く地域住民とも顔馴染みになっている。町会に加入し、3ヶ月毎に広報誌を発行し、活動状況については回覧板で報告している。事業所内は採光に優れ、木材もふんだんに使われ、随所に置かれた大型のソファ - では入居者がゆったりと寛いで過ごされている。サ - ビスの体制も、本人・家族の思いを大切に、状況分析も細かく行われ、望むべく生活の在り方に添う援助計画の下、共生を根本とした支援が展開されている。入居者の表情や動きも活気に富み、残存機能に応じて役割を持ち、生きいきと生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町村との連携に関しては、運営推進会議への出席案内を続けているものの、協働関係が築けず苦慮している状況であり、今後も協力を依頼して行く方向である。権利擁護・虐待・拘束・感染症対策への取り組みについては早い段階でマニュアルを整備し、年間の内部研修に盛り込み学習の機会を確保し、改善に繋げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価を行い、出された課題についてはミ - ティングや会議で話し合い、出来る部分から解決しており、必要に応じて町会や運営推進会議で意見や協力を仰ぎ改善に繋げている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>隔月定期に実施されており、家族・町会・有識者の参加は定着している。事業所の活動状況や夏祭り等の行事への協力、又、外部評価の結果報告等を行い、改善に向けて意見を仰ぐ事もある。防災や入居者外出時の安全への協力についても依頼し、良好な関係が構築されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>玄関に意見箱を設置すると共に、面会や連絡の折に要望や意見の吸い上げを行っている。苦情体制については入居時に書類を以って説明すると共に玄関にフロ - チャ - トを掲示し、受け付け体制を明確にしている。意見が出された場合も速やかに対処し、報告を行い不安の解消に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や食材の買出し、買い物援助等日常的に外出の場面を持ち、積極的に地域に出て地域住民と触れ合う機会を確保しており、顔馴染みの関係が出来ている。地域の田植えの見学に出掛けたり、事業所主催の夏祭りに招待し、職員の芸を披露すると共に、婦人部に演目のひとコマを担当してもらったりと相互に協力体制が出来ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ぬくもりのある生活を大事にしたいという施設長の思いをベースに、笑顔・思いやり・共生をキャッチフレーズに住み慣れた地域で生活が継続出来るよう、理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を諳んじており、日常の介護の中で実践している。又、玄関や居間に掲示された理念を入居者が声に出して読み上げ、共感の言葉も聞かれている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地区出身の入居者が数名居る事や、地域の田植え見学に出かけたり、散歩の場面も多く顔馴染みになっており、地域住民と気軽に挨拶を交わす関係が出来ている。管理者は、構築された人間関係を認知症介護の普及活動に活用したいと考えており、地域の中で講習会を開催すべく取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は全職員で行い、浮き彫りになった課題については出来る事から改善しており、外部評価についても話し合いの場面を持ち、取り組みの方向性を確認している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に行われており、事業所の生活状況や取り組み、外部評価の結果について報告している。事業所のみで解決困難な課題については、参加メンバーから意見をもらったり、地域資源活用の支援を求め解決に向け努力している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域や家族の参加は定着しているものの、市担当者の参加が得られず苦慮している状況である。事業所の運営や実情を把握してもらい、地域福祉を推進する保険者の先導を望むものの、上手く機能していない。</p>		<p>文書で会議開催を案内し、会議録を以って報告するに留まっており、管理者も改善の必要性を強く感じている。継続し担当者側の協働を求め、参加が困難な場合は意見や方針等を文書で頂く等協力をお願いされたい。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>マニュアルを作成し、研修委員会主催で年間の内部研修計画に盛り込み、全職員が学習する機会を持ち、必要時には利用へ繋げられる体制が出来ている。今後も継続的に学習の場面を持ち知識を深めて行く方向である。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修で虐待防止関連法について学習し、全職員の意識の中で、虐待防止に対する意識は統一されており、マニュアルも整備されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居面接の時点で、運営規定・重要事項説明書に沿って十分な説明を行い、本人や家族から不安や疑問点について確認をしている。納得された上で署名・捺印を持ち契約を取り交わしている。料金の変更や、制度の改正時にも都度同様の手続きを取っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用料は窓口納入を奨励しており、毎月訪問の機会を確保し面会に繋げ、状況報告や要望・意見等の吸い上げを行っている。又、3ヶ月毎に個々の暮らしぶりを掲載した個別の広報誌を作成しており、郵送し喜ばれている。金銭預かりは無く、本人・家族の了承の上、小遣いを各自が管理している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時の契約の段階で、文書を以って苦情受付のシステムを説明し、その他玄関に意見箱を設置し自由に意見が出せるように配慮されている。これまでに、居室の温度について要望があり、調整・改善している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>系列のグル - プホ - ム間で異動があるものの、頻度としては少なく、あった場合は入居者に前以て伝え、当日も挨拶を交わし区切りをつける事で納得され不安を解消している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、内容に応じ管理者が参加を勧め、年1回以上は研修に出られる体制であり、内部研修についても研修委員会が中心となり年間計画を立て、学習の機会を確保している。又、資格手当も整備され、資格取得に向けた気概も自ずと高まる環境が出来ている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグル-プホ-ム協会主催の研修会に参加し、学習と情報交換・交流を行い、事業者同士協働で資質向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事前訪問し事業所の状況を説明して、不安の解消に努めると共に、本人・家族と事前に来所していただき事業所の雰囲気を実際に目で見、肌で感じてもらう、入居への移行をスムーズにする配慮が成されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の中に[共に歩む姿勢を持つ]というフレ-ズがあり、共生が対応指針の重要事項になっている。日常的にも個々の入居者が役割を持って作業をしたり、各自の力量や知恵袋を拝借しながら生活を作り上げている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居が決まった時点で家族に情報シートの記入を協力してもらい、且つ聞き取りを行い細かく情報を収集し、思いや希望・意向を把握している。又アセスメントはセンタ方式のツールを使用し、本人の視点に立ち、望むべく生活を模索しながら介護提供している。		
シ					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会や電話連絡等で家族から要望・意見を吸い上げると共に、日常の生活の様子を観察しながら、本人にとってより良い生活の在り方を検討し、全職員で意見を出しながら計画作成している。定期及び変化が観られた場合は随時に、アセスメント・モニタリングも確実に進められ書類も整備されている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化や、本人・家族からの新たな要望に対しては、随時スタッフ間で話し合いの場を持ち臨機応変に介護計画の見直しが行われ、家族の承認や経過記録も細かく記入されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の送迎は事業所の車輛で行うと共に、希望に合わせて、買い物や外出支援を行い、家族からの要望で自宅への外出や外泊も支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には入居前からの主治医との関りを優先し通院継続を支援しているものの、遠方の場合には本人の負担を考慮し協力医院を紹介し、情報の伝達も確実に行なわれ、特に支障無く順調に経過している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>状態急変時には医療に移行するケースが中心であり、これまでに家族からの要望も聞かれていない。管理者の想いとしては、今後終末期支援の要望が出されてくると考えており、早い段階で関係機関と対応方針の共有を図りたいと考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々を人生の先輩として敬い、声掛けの中にも常に感謝の念を添え対応している。記録物は、経過記録や共有すべく情報については職員間で自由に確認出来る扱いとなっているものの、個人情報の性格が濃い文書類は専用のスペースに保管しており、安易に閲覧出来ない体制が出来ている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかなタイムスケジュールはあるものの、個人の体調や気分、想いを優先した支援が行われている。当日も食事の声掛けに、[食べたくない]と返答された入居者が居り、一旦は下がり経過観察を続けながら、時間を置き再度対応されていた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下拵えや味付けへのアドバイスをもらったり、配膳や片付けを共に行っている。又、男性入居者も率先し下膳を行っており、介護される一方の関係に無く、相互に協力し合い食事の一連の作業が行われている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を基本としながら、個別の希望や保清の状況に応じ、随時入浴出来る体制になっている。浴室内も広く、気分が良ければ仲の良い入居者同士と一緒に入ったりする事もあり、入浴が楽しみになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の聞き取りや日々の生活の様子を観察しながら、職員は個々の機能や嗜好を把握し、生活行為の中に役割を持ってもらい有用感を持って暮らせるように配慮している。事業所の中庭には、野菜畑があり、植え付けから収穫までの大半を入居者が行き、食卓に登り感謝される事で生きがいになっている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の外部行事の他に、天候や希望に合わせて気軽な外出支援は毎日のように行われている。戸外での活動にも制限は無く、入居者が自発的に畑作業に出たりしており、職員は安全の見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修として勉強会を行い、拘束がもたらす弊害及び人道上の問題点を再認識している。マニュアルも作成され、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておらず、職員が安全確認の為見守りをした上で戸外の出入りも自由である。無断外出対策として民生委員や町会へ協力依頼しており、了承を得ている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署や地域住民の参加の下、通報・避難誘導訓練を実施し、火災を伝える地域内のサイレンも作動させ、臨場感を持って行われている。又、非常時の持ち出し物品もひとまとめに準備され、災害対策に力を入れている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列の他グループホームの栄養士が献立を作成し、必要カロリーは確保されている。補水についてもおやつの際に実施し、水分量もきちんと押さえている。又、食が落ちた際の支援方法として、日頃から好物のものや、食生活の習慣を把握し対応している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し、内部研修で学習しており、管理者は世情に対応した感染対策について、ミーティングで確認している。又、インフルエンザの予防接種を行い感染予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間にはゆったりと上背のあるソファ-が置かれ、思い思いにくつろがれていた。又、事業所内の天井が高く、広々とした感があり、前庭の木々も色づき始め目を楽しませてくれる。建物もふんだんに木材が使われ、温かみを感じられ、快適な空間になっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の機能に合わせベット配置や敷き布団使用で、安全に配慮している。又、居室内は家具や位牌の持ち込みもあり、家庭の一室と変わりなく、家族の写真や自身の作品も飾られ、各人の想いが感じられる空間作りになっている。</p>		

 は、重点項目。